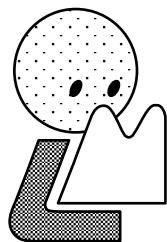


絵本の世界へ①

～赤ちゃんのために～

大阪市立図書館 2026



◎図書に関する記載事項は、次の順になっています。

書名／著编者・画家・訳者／出版社／本の大きさ／ページ数／ISBN

いないいないばあ 松谷みよ子著 瀬川康男絵 童心社 21cm 17p 978-4-494-00101-9

ネコの次はクマが、「いないいないばあ」と顔をみせてくれます。次々に現れる動物たちの後は、のんちゃんの「いないいないばあ」で終わります。赤ちゃんと一緒に遊びながら楽しめます。

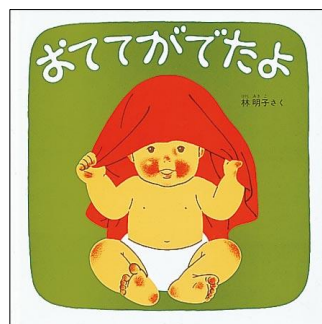
いやだいやだ せな けいこ著・絵 福音館書店 17×17cm 24p 978-4-8340-0216-4

ルルちゃんは、手と足を広げて怒って、なんでもすぐに「いやだいやだ」と言います。「それなら かあさんも いやだって いうわ」反抗期の幼児の姿をリズムカルな口調で、ユーモラスに描きます。ほのぼのとしたちぎり絵が魅力的です。

おててがでたよ 林 明子著・絵 福音館書店

19×19cm 21p 978-4-8340-0683-4

赤ちゃんが、大きな服を頭からすっぽりかぶっています。「あれ あれ あれ なんにもみえない おててはどこかな」「おててがでたよ」やっと左手が出てきました。今度は、頭が出て足が出るまでの姿にっこりさせられます。赤ちゃんの仕草や愛くるしい表情を、見事に描いています。



がたんごとんがたんごとん 安西水丸著・絵 福音館書店

19×19cm 20p 978-4-8340-0272-0

「のせてくださーい」小さな汽車に、哺乳瓶やカップなどが次々と乗り込んできます。終点で降りたところは、こどもの待つテーブルでした。色や形のはっきりとした絵は赤ちゃんの目にもわかりやすく、リズムカルに繰り返す汽車の音は耳にやさしくなじみます。

くっついた 三浦太郎著・絵 こぐま社 18×19cm 24p 978-4-7721-0178-3

ページをめくるたびに、2匹の動物や魚がくっつきます。最後は赤ちゃんが、お父さんお母さんとほっぺをくっつけます。「くっついた」という言葉の繰り返しが楽しく、赤ちゃんに触れあった時の幸せな気持ちが伝わってきます。

こぐまちゃんおはよう 森 比左志著 わだ よしおみ著 わかやま けん絵 こぐま社

20×22cm 22p 978-4-7721-0020-5

こぐまちゃんは、じぶんで顔を洗って朝ごはんもいっぱい食べます。金魚にも朝ごはんをやっておもちゃで遊びます。こぐまちゃんの1日の生活を、平明な色使いの絵で楽しくリズムカルに描いています。

ことり 中川ひろたか著 平田利之絵 金の星社 18×18cm 25p 978-4-323-03905-3

黄色い画面に青い小鳥が1羽、2羽と集まり、パズルのように組み合わせさせていただきます。そこへ黒いネコがそろりそろりと近づくと、小鳥たちは別の形をつくりだします。鮮やかな色のコントラストと小鳥たちの動きが、赤ちゃんも大人も楽しませてくれます。



じゃあじゃあびりびり まついのりこ著・絵 偕成社 14×14cm 22p 978-4-03-102440-2

水と流れる音、紙とやぶる音。物の名前とオノマトペがリズムカルに繰り返され、つられて声に出したくなります。はっきりとした色使いの絵が、赤ちゃんの目を引きつけます。

だるまさんが かがくい ひろし著・絵 ブロンズ新社

19cm 20p 978-4-89309-431-5

だるまさんが、「だ・る・ま・さ・ん・が」の声にあわせて体を動かし、どてつと倒れたり、びろーんと伸びたりします。だるまさんのひょうきんな動きにつられて一緒に遊びたくなります。からだ全体で楽しめる、「だるまさん」シリーズの1冊目です。



でんしゃ バイロン・パートン著・絵 こじま まもる訳 金の星社 16×19cm 32p 978-4-323-01921-5

電車はお客さんをのせて、いろいろな電車とすれ違いながら、山や町を抜けて走っていきます。はっきりした線で描いた絵は、まるでおもちゃの電車を見ているような楽しさがあります。

どうすればいいのかな？ わたなべ しげお著 おおとも やすお絵 福音館書店

22cm 23p 978-4-8340-0768-8

「どうすればいいのかな？」シャツや靴を手にくまくんは考えます。そうそう、シャツは着るもの、靴ははくものですね。ちゃんと一人で着替えて、くまくんはでかけていきます。

ととけっこう よがあげた こばやし えみこ案 ましま せつこ絵 こぐま社

20×22cm 24p 978-4-7721-0177-6

「ととけっこう よがあげた」のわらべうたに合わせて、ニワトリがいろいろな動物たちを起こしてまわります。水彩とコラージュを組み合わせた絵は、くつきりとしていて、やさしい色使いです。繰り返される言葉はリズムよく、心地よい響きが楽しめます。

ねーずみねーずみどーこいきゃ？ こが ようこ構成・著 降矢なな絵 童心社

21cm 20p 978-4-494-01257-2

わらべうたに合わせて、愛らしい子ねずみや子うさぎ、子ぐま、あかちゃんが次々と親の胸に飛び込んでいきます。リズムカルな言葉の繰り返しと心地よい絵本です。巻末には楽譜と遊び方が紹介されており、子どもとふれあって楽しむ時の参考になります。

ねんね さえぐさ ひろこ著 アリス館 23cm 23p 978-4-7520-0264-2

キツネやライオン、ゴリラなどいろいろな動物たちが、気持ちよさそうに眠る姿を撮影した写真絵本です。「なかよしねんね」「ぷかぷか ねんね」などの言葉が心地よく、眠気をさそいます。おやすみ前に読むのにぴったりの絵本です。

ぴょーん まつおか たつひで著・絵 ポプラ社 16×16cm 37p 978-4-591-06476-4

かえるが、ぴょーん。こねこが、ぴょーん。いろいろな生き物たちが、次々にぴょーんととびあがります。ページをめくるたびに「ぴょーん」という言葉と、きれいな色で描かれた生き生きと動きのある絵が、赤ちゃんの興味をひきつけます。

ペンギんたいそう 齋藤 慎著・絵 福音館書店 20×20cm 20p 978-4-8340-8253-1

「ペンギんたいそうはじめよ」と、2羽のペンギンが首をのばしたり、うでをふったり、ペンギンらしい動きで体操します。読むと自然に体が動き、幅広い年齢の子どもが楽しめます。明るい黄色を背景にペンギンの黒白が映えて、楽しい雰囲気も伝わってきます。

ぽんちんぱん 柿木原政広著・写真 福音館書店 20×20cm 20p 978-4-8340-8092-6

「ぱんぱん しょくぱん ぽんちんぱん」と唱えてページをめくると、食パンに顔ができています。パンをちぎって穴をあけ、ゆかいな表情を作って見せる楽しい写真絵本です。言葉のリズムが心地よく、声に出して読みたくなります。

もこ もこもこ 谷川俊太郎著 元永定正絵 文研出版 29cm 29p 978-4-580-81395-3

色鮮やかな絵に詩人の言葉が添えられ、魅力的ながらもすこし不思議な世界がページをめくるとに展開していきます。単純な形の絵と「しーん」「もこ」などの短い擬音だけで構成され、読み手ごとに異なる想像の世界が広がります。